

[平成 30 年度在京飯田高校同窓会総会 報告記]

2018 年 11 月 10 日(土)にアルカディア市ヶ谷において在京飯田高校同窓会総会が 214 名の参加のもとに開催されました。今年是在京同窓会が設立されて 65 周年にあたり、学年幹事の高 33 回生(代田秀雄幹事長)および高 43 回生により企画・運営されました。総会を成功させようと、幹事会が今年 3 月に発足され、精力的に企画・準備に取り組み、学年幹事の見事な連携ぶりを見せてくれました。そして、残念ながら花園出場はかないませんでした。飯田高校ラグビー班を準優勝に導いた湯澤監督の講演と教え子との対談で盛り上がり、総会はラグビー一色を呈しました。

第一部の総会では、物故者に対する黙禱の後、校歌の斉唱を行って総会が開始されました。まず佐々木康夫会長(高 15 回)が挨拶に立ち、昨年度始めた「無料法律相談室」及び「パソコン操作無料相談室」が同窓生のお役に立っていることが紹介され、さらに「医療相談室」の新設が述べられました。次いで、本部同窓会会長の宮島八東さん(高 15 回)の来賓ご挨拶があり、Uターンへの勧めや本部同窓会費納入のお願いなどが紹介されました。続いて第 1 号議案では大原事務局長が平成 29 年度事業報告と平成 30 年度事業計画を発表し、事務局の新設と総会参加者の増加策等について述べました。ひき続いて第 2 号議案では、榊原会計担当幹事から平成 29 年度会計報告と平成 30 年度予算案が発表され、第 1 号議案、第 2 号議案とも満場一致で採択されました。

第二部講演会では、まず飯田高校ラグビー班の湯澤一道監督(高 32 回)が「ラグビーだけで終わらない」と題して講演されました。岡谷工業のラグビー班を育てたエピソードを交え、練習量が十分とれない飯田高校が練習量豊富な他校に勝つためには、限られた練習で「効率、集中、切替」が大事であり、文武両道を目指す飯田高校ラグビー班のあり方を述べられました。そして、ラグビー班出身の多くの卒業生が医師、弁護士、教員など、多分野で活躍中であり、またラグビーの指導者を目指す多くの後輩たちに自分を越えるよう努力してほしいと述べられました。

引き続いて、ラグビー班出身の法政大学生・児玉沙葵(さき)さん(高 69 回)との対談では、女子クラブチーム「ブレイブルーヴ」で活躍する児玉さんがラグビーへの熱い思いを語り、湯澤監督から児玉さんへその成長ぶりと今後へのエールが贈られました。この湯澤監督の講演と児玉さんとの対談は、大変な好評を博しました。なお、展示コーナーでは、昨年の花園での試合の様子などが展示されました。

第三部懇親会では、まず巻山圭一校長先生からご挨拶を戴き、今年春の進学状況の他、惜しくも花園行きは逃したが、7 人制ラグビーでは全国大会出場を果たしたことが報告されました。校歌の歌詞にある「或いは学び或るは馳せ」の意義について強調されました。その後、高 12 回の 2 名の方に喜寿祝が贈呈され、次いで最年長の平田達さん(中 47 回)のご発声により全員で乾杯しました。会場が旧交を温めあう和気藹々とした雰囲気の中、卒年毎の写真撮影で盛り上がりました。また、喜久水の「利き酒コーナー」が設置され、勿論、人気の五平餅も出されました。また、地元飯田からは、“見晴”の五平餅の販売のほか、ラグビー応援に使ったタオルや Tシャツの販売がなされました。

宴たけなわの頃、当日のラグビー応援グッズの売り上げの贈呈式が行われ、佐々木会長から湯澤監督に贈呈されました。その後、元応援団や元ラグビー班の指揮により、参加者全員で応援歌を合唱し、「友よ若木の」「長姫城頭」「黒雲沸けよ」が歌われ最高潮に達しました。そして、来年度幹事(高 34 回、高 44 回)への引継ぎの後、本島信副会長(高 11 回)が中締めを行い、3 時間半に及ぶ在京飯田高校同窓会総会は大歓声の中で終了しました。(大原直、高 21 回)